

日昇軒 萬代館映画上映会

NUOVO CINEMA PARADISO

ニュー・シネマ・パラダイス

<1989年 イタリア=フランス 字幕版 123分>

SPECIAL EDITION



Un film scritto e diretto da
GIUSEPPE TORNATORE

PHILIPPE NOIRET
SALVATORE CASCIÒ
MARCO LEONARDI
JAQUE PERRIN
LEOPOLDO TRIESTE
PUPELLA MAGGIO
BRIGITTE FOSSEY

Soggetto e Sceneggiatura GIUSEPPE TORNATORE
Prodotto da FRANCO CRISTALDI
Fotografia BLASCO GIURATO
Scene ANDREA CRISANTI
Montaggio MARIO MORRA
Musiche ENNIO MORRICONE

7月5日(日)

①10:30~

②14:00~

観賞料 1,500円



監督 ジュゼッペ・トルナトーレ

(「教授と呼ばれた男」、「海の上のピアニスト」、「モリコーネ 映画が恋した作曲家」)

出演 ジャック・ペラン フィリップ・ノワレ サルヴァトーレ・カシオ

あの頃、映画館があった。 人生は映画から教わった。

1989年の日本初公開以来、名作として世界中で高く評価された珠玉の一本を萬代館で上映致します。映画好きの少年トト(サルヴァトーレ・カシオ)と、村の映画館の映写技師アルフレード(フィリップ・ノワレ)の交流を、溢れんばかりの映画愛と共に描く名作です。

あなたの心の中には、今でもトトがいますか？

あなたにとってのアルフレードはいますか？

あなたにとってのパラダイス座はどこですか？

昨今、大変な勢いで次々と減っている映画館。

時代と共に消えつつある映画館というものの存在意義を共に考えてみませんか？



<萬代館の歴史>

1909年、山火廣治氏により、蔵を改造した人形芝居小屋として開館。1914年に一戸町に電灯が付くようになり、盛岡から弁士を招いて活動写真を始めるようになる。萬代館の始まりである。同時期、鉄道の敷設工事に伴って人が多く集まるようになり、遊郭街と共に発展。二代目館主・山火徳次郎氏が戦後すぐに映写技師の資格を取り、妻の光子さんも1950年に岩手県初の女性映写技師となる。ふたりの尽力により、黄金期を支えた。テレビの普及により、映画産業の衰退が始まると、1970年代には平日に成人映画、週末に一般向け映画という構成になる。1980年代後半には常設映画館ではなくなり、週末のみの上映となった。1999年には二ヶ月に一度程度のアニメ映画の上映形態となり、2001年に山火徳次郎氏の死去により、幕を閉じる。現在は有形登録文化財として一戸町が管理し、年に一度の映画祭「カシオペア映画祭」が開催され、2026年に第30回の節目を迎える。

現在日本全国には100年を超える歴史を持つ映画館が約20館ほどありますが、二階席のある映画館は、萬代館を含めて数件しか存在しない貴重な存在となっています。

<日昇軒とは？>

個人映画上映団体として2023年に発足。第一回上映作品として、津軽三味線の名手・高橋竹山とその弟子の二代目・高橋ツネを追った、大西功一監督のドキュメンタリー映画「津軽のカマリ」を上映。同時開催で二代目・高橋竹山による津軽三味線演奏会を開催。同年、第二回上映作品として、同じく大西功一監督よりお誘いを頂き、宮古島に口頭伝承で唄い継がれる島唄と、それを唄う島民の姿を追ったドキュメンタリー映画「スケッチ・オブ・ミヤーク」を上映。2024年、八戸市の映画上映事業支援団体「白マドの灯」との共同事業として、川島雄三監督作品「幕末太陽傳」の上映と、「幕末太陽伝と一戸北館遊郭」と題したトークショーを開催。同年、映画上映団体「シネマ・デ・アエル」との共同開催で、和ろうそくの制作に関わる日本全国の職人とその手仕事を追った、写真家・大西暢夫監督のドキュメンタリー映画「炎はつなぐ」上映と、浄法寺漆業協会会長と大西暢夫監督のトークショーを開催。今回、個人上映会としては初の劇映画「ニュー・シネマ・パラダイス」を上映。今後も小さな上映会を企画中。

「日昇軒」の名前の由来は、1925年に萬代館の前(現在は萬代館に通じる階段部分)に中華食堂(1982年に廃業)を起業した主催者の祖父の店名から拝借しました。

日昇軒 萬代館映画上映会
次回は2026年9月を予定しております。

問い合わせ先 : 日昇軒 (担当:宮澤 080-8869-8833)